



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島教区 電話099(226)5100 振込口座02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円

道標



鈴木康由さん助祭に

求め続けて鹿兒島で叙階

二月十九日(日)十四時から鹿兒島カテドラル・ザビエル記念聖堂で助祭叙階式があり、アウグスチヌス鈴木康由さん(四十四歳)が助祭の聖位にあげられた。

現在、聖母幼稚園で働く鈴木さんが鹿兒島にやって来たのは昨年の夏のこと。「司祭になりたい」という

思いを実現するためそれまでの修道生活を捨てて足を運んだのである。

鈴木さんは一九六八年一月二十三日に父・修次さんと母・とき多さんの三男として静岡県天竜市に生まれた。高校までを地元で過ごした後、明治学院大学へ進学。受洗したのは同大学在学中で、卒業後は外資系の

喜びのうちに終了 今年の司祭大会

恒例の司祭大会が一月三十日(月)から二月二日(木)まで奄美市内のホテルと名瀬聖心教会を会場に開催された。参加したのは教区で働く司祭たちのうち所要で出席できなかった司祭を除く三十六人。指導は東京の森一弘司教だった。司教の講話のテーマは「教会理解と信仰のありよう」で、副題には「これからの教会のあり方を求めて」が掲げられた。講話は二日計四回、その中で森司教は①教会の真の意味を問うこと、②教会の歴史を振り返り、③今一度四人の福音史家が説くキリストと出会い、④そのキリス

トと出会っている信者の思いを共有することがとても大切であると説かれた。司教の講話はよくまとめられており、とても良い示唆を与えられたと参加者はともに喜び合った。

大会二日目の夜七時から、これも恒例になっている信者との交流会がカトリックセンターで開催され、奄美大島の殆どの教会から百四十人もの参加を得ることができた。

大会の最後には定例司祭集会が開かれ、二〇一二年度年間行事の確認、またノベナについて話し合われた。大会を通して参加者全員が心と体をリフレッシュすることができた。

【定例司祭集会で確認された二〇一二年度の年間行事予定とノベナの教区の意向を二面に掲載】



パークレイズ信託銀行、USB信託銀行勤務の経歴がある。その後入会した聖アウグスチノ会時代には上智大学神学部で博士課程を修

了、また長崎の聖マリア学院で教鞭を執るなど社会経験も抱負。しかし同修道会では「司祭職への道が閉ざされた」と感じ、鹿兒島教区の門を叩いたのである。

そんな鈴木さんがこの日、郡山司教の授手によって助祭にあげられた。

叙階式直前の黙想の最中(二月十一日)には、厳父・修次さんが帰天。その悲しみを乗り越え、追いつめてきた司祭職まであと一歩のところまで辿り着いた鈴木さんである。

聖堂内には、鈴木さんの決意と修次さんの冥福を祈る温かさが溢れていた。

新風

私たちは祈るとき壁を設けてはいないだろうか。少なくとも私はそうだった。「こんなことは祈っても無駄だ」と自合いを限定していたように思う。司祭評議会、コンベンツス

祈りの醍醐味

で祈りの教区づくりを話し合うとき、神父様方の表情はとても穏やかで新鮮さを感じた。今教区は祈りの教区を目指している。

祈りの醍醐味は福音が教えてくれる。二月九日の福音は汚れた霊に取りつかれた幼い娘を持つ女が登場する(マルコ七の24から30)。彼女はイエスの前にひれ伏し「娘から悪霊を追い出してください」

と願う。ひれ伏すほどの祈りを私自身したことがあっただろうか。しかし主は彼女の願いを受け入れない。「子供たちのパンを取って、子犬にやっつけはけない」なんとときびしい言葉だろうか。祈りの壁の登場である。私なら「分かりました。失礼しました。」とさよならするところだが、この母は違った。

「食卓の下の子犬も、子供のパン屑はいただきます」祈りの深さ、祈りの広さ、祈りの醍醐味がここににある。その言葉によって主は前言を撤回し悪霊を追い出された。

狭い祈りから広い祈りに移行するとき、私たちは初めて祈りの醍醐味を味わうのだろうか。祈りの壁を崩すとき私たちは今まで触れていなかったキリストに触れることになる。(教区本部 寝占敦之)

3月11日カテドラルで司教ミサ

大震災から一年、追悼と再生を祈る

東日本大震災から一年となる三月十一日(日)、午後二時から鹿兒島カテドラル・ザビエル記念聖堂で司教ミサがささげられる。これは日本カトリック司教協議会(池長潤会長)の呼びかけによるもので、震災による犠牲者の追悼と被災地の一日も早い復興を願うというものである。教区では一人でも多くの信者にこのミサに参列し祈りをさ

ボランティア活動の 拠点が開所

大槌ベース便り

昨年十二月十三日(火)、長崎教会管区がボランティアの拠点として計画を進めてきた大槌ベース(岩手県上閉伊郡大槌町)の開所式が行われた。開所式では「東日本大震災復興支援」の長崎教会管区責任者・浜口末男司教の司式のもとミサと祝福式が行われ、全国から約八十人が参列した。

「何もなくなつた街に二十四時間ともる灯の家を」を合言葉に、寿ビジネスホテルの改築・改修に約三か月を要した。この作業の中心になったのは、現在もベース長を務める古木真理一神父(長崎教区事務局次長)だ。

神父の活躍で常に約

教区人事

- ▼小川靖忠神父(ザビエル教会主任・聖母幼稚園園長)は、司教総代理のま
- ▼P・アン神父(大熊教会主任)は、ザビエル教会主任司祭
- ▼O・ベルナルディーノ神父(教区本部)は、志布志教会主任司祭
- ▼G・ティエン神父(鴨池教会主任)は、小宿教会主任司祭
- ▼J・ドゥン神父(小宿教会主任)は、加世田教会主任司祭
- ▼泉浩二神父(加世田教会主任)は、鴨池教会主任。並びに聖母幼稚園、加世田聖母幼稚園園長兼務
- ▼寝占敦之神父(教区本部)は、玉里教会管理者

修道会人事

- ▼平孝之神父(古田町教会主任)は、長崎へ
- ▼柳本繁春神父(古田町教会助任)は、古田町教会主任司祭
- ▼久保芳一神父(ザンビア)は、古田町教会助任司祭
- ▼S・ロベルト神父(玉里教会主任)は、休暇

司祭の消息

▼中野裕明神父(日本カトリック神学院福岡キャンパス)は、新年度から同学院東京キャンパスへ。この異動に伴い中野神父が毎月教区本部で開いている信仰養成講座は三月で終了となる。

※着任はいずれも復活祭後。但し学校・幼稚園関係者は四月一日付。

二十五人のボランティア受け入れが可能となった。現在はスタッフ四人、ボランティアは六人が平均との報告が来ている。

活動内容は、町の社会福祉協議会から要請を受け写真洗浄、瓦礫処理、仮設住宅での喫茶開設等で、このほかスタッフが力を入れていくことに他のベースとの連携の確立という。

一月二十六日には長崎教会管区の担当司祭の会議が開かれ、席上、古木神父が「スタッフにもかなり疲れが出てきた。各教区で長期にボランティアをしてくれる人がいたらお願いしたい。また皆の祈りの応援が欲しい。もし霊的花束を贈ってくれる場合は写真も同封して欲しい。施設に飾り、皆の励ましにしたい」と発言、また「町の人々のために尽くしキリスト者としての奉仕ができれば」と結んだ。

一致のために初の集会

一月十九日に指宿教会で

キリスト教一致祈禱週間(二月十八日～二十五日)中には、教区内各地でカトリックとプロテスタントの兄弟たちが分裂という不幸な歴史を乗り越え、その一

致のために共に祈り合う集會が開かれたが、指宿市でも初の集いがあつた。一月十九日(木)夜、指宿教会(美島春雄神父)での「一致祈禱集會」は、日本キリスト教団



坂田牧師の講話を熱心に聞く

指宿教会(坂田茂牧師)と協力して開かれたもので、両教会から十三人の参加があつた。両教会からの信者たちはまず坂田牧師から講話を聞いた後、美島神父の司式で集いの進め、一致のために祈りをささげ、賛美歌を歌つた。

司教執務室だより

ノベナの祈り

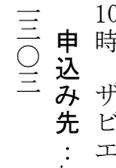
ノベナの祈りを提唱して二カ月が過ぎたが、何年も一人で続けているという人がいたり、〇〇のためにノベナをします、といった便りが寄せられたりするようになった。「お祈りします」というより「ノベナの祈りをします」のほうが具体的にいい。先ずは私たちから、と事務所の終礼の祈りがノベナの祈りに変わったのも嬉しい。

いろいろなノベナの祈りがあるよなので、各自が気に入ったものを入れたいと思うが、僕のお気に入りは「決して見捨てられたことがない」として知られるノベナの祈りだ。ネットを探したものが、第一、タイトルが気に入った。聖ヨセフに取り次ぎを願うものだが、祈りの前に短い黙想をすることになっている。自分流にアレンジした。

「聖ヨセフは、神の御子を育むもつともふさわしい器として神の恵みに完全に守られていた。そして、恵みに対する揺るがない信仰のうちに聖母と共に『なれかし』を生き抜かれた。そんな聖ヨセフに倣って愛の人となる望みを抱く。」

の初日の欄に意向と九という数字を記す。そして、次の日から八、七と一まで下っていく。カレンダーが九日ごとに区切られ、毎日が祈りで埋め尽くされることになるわけで、祈つてあげる人や事柄が、九日間、具体的に心に刻まれることになる。こうして、ノベナの祈りのネットワークが教区内に、いや日本中に張り巡らされることになる。祈りの意向が尽きないことにも驚くはずだ。

信仰発祥の地にある教会として、強力な祈りによる支援を教区内に留まらず、全国に展開することこそ、ザビエル様の意志を継ぐことであり、ご恩に対してお返しをすることになる。こうした宣教的聖なる祈りの伝統を築いて欲しいと思う。



かち合い、交流を深めた。参加者の一人は「初めての集いだったが、とても有意義だった」と話していた。(報告・永井勲)

西郷隆盛の心を学ぶ

マリア山荘で講演と討議

一月二十二日(日)マリア山荘(坂本進神父)で、高柳毅さん(西郷南洲館館長・前南日本新聞調査部長)による「西郷隆盛はキリスト者だったか」と題する講演と討議があつた。この催しには、郡山司教をはじめ岡俊郎神父(純心学園)、坂本進神父が出席したほか、穂森幸一牧師の姿もあつた。高柳さんの講演と問題提起は次の通り。

①西郷は陽明学の「知行合一」の生き方を学び、それを実践した。
②西郷は物事を真摯に受け止め、誠実、誠、仁を大事にしそれを実践した。
③求道の生き方がキリスト教との出会いでまさに合致し、基督教徒となつた。

仁川から巡礼団

司祭団22人が指宿に

二月十三日(月)と十四日、韓国の仁川教区からチョギサン司教と二十一人の司祭が指宿教会を訪問した。仁川教区は、鹿児島同教区の神学院に受け入れられている。また一月にはそのうちの二人の神学生ドミンゴとアントニオを助祭に叙階してくれた。そんなつながりのある教区から大勢の司祭たちが、温泉で有名な



指宿市を訪れ、また指宿教会でミサをささげ、信者たちと交流のひとときを持つた。(報告・永井勲)

鈴木昭三修道士

ラ・サール修道会鹿児島修道院のアロイジオ鈴木昭三修道士が、二月十四日(火)、入院先の鹿児島徳州会病院で脳梗塞と肺炎のため亡くなった。八十三歳だった。葬儀は二月十六日(木)、谷山教会でしめやかに執り行われた。

「短信」

鹿コミチウム黙想会
一月二十七日ザビエル教会で、内山啓介神父(御受難会)の指導で黙想した。

3月の会と催し

- 4日(日) 四旬節第二主日
- 10日(土) 宣教学校・教区本部・13時30分
- 11日(日) 四旬節第三主日
- 12日(月) 神修神父叙階記念(二〇〇一年)
- 14日(水) ザビエル列聖記念日の司教ミサ・19時・カテドラル
- 14日(水) 柳本繁春神父叙階記念(一九六四年)
- 17日(土) 信仰養成講座・教区本部・10時と19時
- 17日(土) 田原章神父叙階記念(一九五三年)
- 18日(日) 坂本進神父叙階記念(一九八四年)
- 18日(日) 四旬節第四主日
- 19日(月) 岡俊郎神父叙階記念(一九六六年)
- 19日(月) 聖ヨセフ
- レデンプトル会例会
- 大野和夫神父、牧山田一神父、マイベルガ神父、岡俊郎神父、榎尾泰英神父、タム神父霊名
- ゼローム神父命日(二〇〇三年)
- 成相明人神父叙階記念(一九六七年)
- 丸野六雄神父叙階記念(一九七七年)
- 20日(火) 郡山健次郎司教司祭叙階記念(一九七二年)
- 20日(火) 永山幸弘神父叙階記念(一九六八年)
- 21日(水) 寝占教之神父叙階記念(一九八三年)
- 21日(水) 美島春雄神父叙階記念(一九六七年)
- 21日(水) 大松正弘神父叙階記念(一九八七年)
- 21日(水) 小隈憲士神父叙階記念(一九八八年)
- 21日(水) 末吉卓也神父叙階記念(二〇〇三年)
- 21日(水) 石田望神父叙階記念(二〇〇三年)
- 24日(土) 山口好信神父叙階記念(一九九一年)
- 25日(日) 四旬節第五主日
- 26日(月) 泉浩二神父叙階記念(一九九三年)
- 26日(月) 神のお告げ
- 26日(月) 中高生の長崎巡礼・28日
- 26日(月) 平孝之神父、浜崎真実神父叙階記念(一九九五年)
- 27日(火) コンタリーニ神父命日(一九九八年)
- 27日(火) 島田喜藏神父命日(一九四八年)
- 28日(水) 田邊徹神父叙階記念(一九五一年)
- 28日(水) 明松尊吉神父命日(一九九二年)
- 31日(土) 河野純徳神父命日(一九八九年)

中高生の長崎巡礼 参加者募集

「みことば(呼びかけ)を生きるとは」
3月26日(月)～28日(水) 参加費：一万五千元(離島本土間旅費は主催者負担) 準備：宿泊道具、筆記用具、歩きやすい靴 集合：26日10時 ザビエル教会
申込締切：3月11日(日) 厳守 申込み先：加世田教会・泉神父 ☎〇九九一五二一三三〇三

小さいけれど大切な集い

芦花部の教会学校

献堂八十年を超える大熊小教区の芦花部教会(アン主任司祭)の主日のミサに行ってきた。ミサの前に隣の伝道館に参りますと、かわいい子どもたちの祈りの声。中に入り、もしかしてと思い尋ねました。「教会学校?」「そうです。」とリーダーらしき方のお答えでした。

昨年、芦花部教会に教会学校をつくりたいという主任司祭の呼びかけに信徒が応じて実ったものとか。現在、武田優心君以下五人。リーダーは押川喜美子さん、サポーターとして作田星子さん。この小さな、しかしとても大切な集いに神さまの恵みが豊かにありますように。(教区本部 寝占記)

答えて下さった方は、私が名瀬教会の助任時代にも教会の奉仕をして下さっていた押川喜美子さん。後日、アン神父さまに尋ねると、



彼女に会うたびに、この彼女のエネルギーはどこから湧いてくるのかと不思議になる。二〇〇九年にはパリからサンティアゴまでの八百キロの巡礼道一人で歩ききった彼女、翌年にはその旅の様子と感動を本にまとめ出版した。そして今、東日本大震災で壊滅した町の一つ大槌町にある長崎教会管区のベースで活動して

東日本大震災被災地で働く

吉野教会 小河原恵美子さん

この人



彼女に会うたびに、この彼女のエネルギーはどこから湧いてくるのかと不思議になる。二〇〇九年にはパリからサンティアゴまでの八百キロの巡礼道一人で歩ききった彼女、翌年にはその旅の様子と感動を本にまとめ出版した。そして今、東日本大震災で壊滅した町の一つ大槌町にある長崎教会管区のベースで活動して

俳句
ありがとうの心で祈るこの寒さ
立春の言葉のひびき和みけり
出水市 沖 弘子
草萌や声なき声の殉教地
愛光園 春山マリ子
ただ生きる幸せ冬の日和かな
純心学園 山頭 信子
元旦や侍者青年の清々し
初春の謝恩の茶会振袖かな
鹿児島純心 川上 和
パライソと祈る西坂梅も散る

霧島市 政 ノブ子
紅梅や愛と祈りの四旬節
短歌
妹の残せし木の十字架を宵の雨音きき
つつ磨く
ゆるやかに鳶よぎれる窓の辺に聞きあ
るヴェルリオーズの幻想交響曲
鹿児島純心 川上 和
しらむ空白波一筋湾に立つザビエル南
風薩摩に吹けり
愛光園 春山マリ子
明け方の鐘の音聞いて喜びを今日を迎
える楽しき思い

ザビエル書院の窓

自発教令

信仰の門―「信仰年」開始の告示

カトリック教会のカテキズム発布 20周年の記念日である10月11日から来年の11月24日まで開催される信仰年について、その意義を述べ、信仰内容



の再発見、信じることについての考察の重要性を説く、全信者必読の自発教令書です。
定価 126円
(A5判 32頁)

昨年三月九日、水戸市にある日本三名園の一つ「偕楽園」観光のときに、最初の揺れを感じた彼女、その後埼玉に移動した十一日、さらに大きな振動に遭遇することになった。幸い宮城県に住むお姉さんとは連絡が取れたものの改めて「たが事ではない地震」とその被害の様子を感じとったという。すぐにでも現地に赴きたいと思った彼女だが、年度末だった。吉野教会の会計担当だった彼女は、焦る気持ちを抑え会計事務処理のために鹿児島に戻り、すべ

てを済ませた五月の連休明け、塩釜へと向かった。その

ここで彼女が担当したのは、ボランティアのためには駆けつけてくれた人たちのお世話。そこで四か月ほど働く中で、仕事の合間を見ては廃墟と化した町へ足を運び、現地を確認、また被災者たちに声を掛けてきた。そしてまた今は、長崎教会管区が復興のお手伝いをする岩手県の大槌町ベースで活動している。彼女曰く「ベースのまわりには人の気配はほとんどありません。でもベースでは夜、なるだけ電気をつけておきます。それが希望の光になるようにとの願いを込めているからです」と。また彼女が教えてくれた。「大槌町はまったく復興の目処が立たない所。それは皮肉にも町長や町の主だった人が津波にのまれ亡くなったしまったからです。阪神大震災でも復興に十数年要しました。今回ももっと長い期間が必要でしょう。もう家を建てることも不可能な地域がたくさんあります。この人々はどうやって生きていこうとするのでしょうか。離れた土地にいと少しづつ風化されようとする大震災の悲惨な記憶を彼女が呼び戻してくれた。

+KABAYAN SEKSIYON+

"PAGLALAHAD"

LMGA PAUNANG-PANSIN

Ang unang pansin ay ang lakas ng mga paglalarawang ito na *iangat tayo mula sa ating mga sarili at ituon ang ating mga mata sa Dios*, at sa lahat ng ginawa Niya sa kasaysayan para sa atin. Walang mali-ning damdaming panrelihiyon tungkol sa kung ano ang *ating* ginagawa para sa Dios o kaya ay sa *ating* mga tungkulin. Pinalaya tayo ng Kredo mula sa pagkamakasariili sa pamamagitan ng pagtuon ng ating pansin sa *IISANG DIYOS na walang iba kundi Pag-ibig*. Bilang panalangin, tinuturuan tayo ng Kredo na sumampalataya, magtiwala, manindigan hindi sa ating nararamdaman, o sa ating ginagawa, o sa ating kailangan o kaya ay kung sino tayo, bagkus kung sino ang Diyos, kung ano ang ginagawa ng Diyos, ano ang kalooban ng Diyos at kung ano ang inihahandog ng Diyos sa pamamagitan natin at para sa atin. Ang ikalawang paunang-pansin ukol sa *nararapat na pagkakakilanlan ng Diyos*. Tunay na ang Kredo ay tumutugon sa pang-kalahatang pangangailangan ng tao sa Diyos. "Kung paanong yao-ning batis ang hanap ng isang usa; gayon hinahanap ang Diyos ng uhaw kong kaluluwa. Nananabik ako sa Diyos, Diyos na buhay, walang iba". Sa buong kasaysayan, kapwa ang lalaki at babae ay nakipag-ugnayan sa Diyos sa kanilang pagkaranas sa Kanya sa ganda ng ka-likasan at sa kanilang sariling kasaysayan. Sa *Matandang Tipan*, inihayag ng Panginoon ang Kanyang sarili sa kasaysayan ng paglilig-tas sa mga Israelita bilang ng nasusulat sa Matandang Tipan. *Lisa lamang ang Diyos* na dapat mahalina, na nagpapahayag ng kanyang *Ngalan "Ako nga"* na siyang *Katotohanan at Pag-ibig*. Ang maniwa-la sa ganitong Diyos ay nakaaapekto nang malaki sa ating buong-buhay. Nangangahulugan ito ng pagkilala sa kadakilaan ng Diyos, na nabubuhay sa pagkilos ng Kanyang biyaya, nang may buong pag-titiwala sa Kanyang kagandahang-loob, *kumikilala* sa pagkakaisa at dangal ng bawat tao, at sa atas ng pangangalaga sa buong-kalikasan. Ngunit ang Diyos ng Kredo, habang matibay na nakabatay sa pa-hayag sa Matandang Tipan, ay ang mismong diyos na nahayag sa mga konkretong karanasan ng Muling Pagkabuhay at Pentekostes. Siya ang Diyos na inihayag ni Jesu-Kristo, ang Diyos na naranasan ng mga alagad ng muling nabuhay na Kristo, sa kapangyarihan ng Espiritu. Ang "Ama" sa Kredo ay nangangahulugan, higit sa lahat, ng *"Ama ng ating Panginoon Jesu Kristo"*, at tanging sa pananaw na ito, Ama ng lahat ng tao. Ang pagkilala sa "Ama" sa Kredo samakatuwid ay pagpapakita ng nagpapahiwatig ng natatanging ugnayan ni Hesus sa Ama batay sa kasulatan. Nang tanungin si Hesus ni Felipe: "Panginoon, ipakita po ninyo sa amin ang Ama, at maisisiyahan na kami." Sumagot si Hesus, "Ang nakakita sa akin ay nakakita na sa Ama... Ang Amang sumasaakin ang gumaganap ng kanyang mga gawain." Naghahatid ito sa atin sa ikatlong paunang pansin, ang Santatlo bilang tiyak na "Kristiyanong" larawan ng Diyos.

Katekismo-Pilipinong Katoliko (Fr. Dino Orolfo)

教区報お届方法の変更
昭和四十三年に第三種郵便物の認可を得ていた「鹿児島カトリック教区報」ですが、同認可の継続には購読者一人ひとりの領収証が必要との指摘があり、昨年の十二月号で第三種郵便物としての廃刊を決めました。そのため教区報は郵送料を抑えるため「郵メール」「郵パック」でのお届けになりました。ご了承ください。

教区広報部

集いのお知らせ

- ホリスティックスピリチュアルケア講座「ゆるしと新しい命」 3月13日(火) 18時30分、ザビエル教会集会室、500円
- ホリスティック四旬節一日黙想会「ゆるしと新しい命」 3月19日(月) 10時～15時30分、ザビエル教会ホール、1,000円(弁当申込は要予約で別に500円 古城まで=TEL 090-3193-0148)
- マリア山荘黙想会・聖ファウスティナの「神のいつくしみの祈り」及び黙想とノベナの9日間の祈り 3月17日(土) 15時～18日(日) 16時、マリア山荘、コーディネートは坂本進神父と西園留美子、6,000円、申込みはマリア山荘=☎0995(58)2994
- マリア山荘黙想会・召命黙想会 3月24日(土) 15時～25日(日) 16時、マリア山荘、助言者は修道女及び司祭、6,000円、申込みはマリア山荘=☎0995(58)2994

- キッペス神父の黙想会 3月17日(土) 10時～18日(日) 16時、マリア山荘、申込はキッペス神父=TEL 0942-31-4835
- 第11回みことばと祈りの集い 3月26日(月)と27日(火)、教区本部2F 指導は裏辻洋二神父(イエズス会) ※両日とも10時～16時30分、ミサ有り。費用は1日2,000円 弁当が必要な方は500円。申込:柳=TEL 090-4587-2187
- 聖アルフォンソ合唱団・聖アルフォンソ室内管弦楽団・鹿児島国際大学合唱団演奏会 3月29日(木) 開場:18時30分 開演:19時、かごしま県民交流センター「県民ホール」曲はマグニフィカート(J・S・バッハ作曲)、レクイエム(W・A・モーツァルト)、指揮:ウーヴェ・ハイルマン、入場料:2,000円(学生1,000円)、主催:谷山カトリック教会 共催:鹿児島国際大学